

国立大学附置研究所・センター会議 第1部会シンポジウム

海が拓く新時代

2019年
10月5日

Saturday
13:30 ~ 16:30

開場
12:30

- 会場 -
高知会館
(2階・白鳳)

対象者(定員100名程度)

どなたでも
ご来場
いただけます

入場
無料

事前
申込み
不要

Program

- 13:30 開会の辞 **本家 孝一** -高知大学・理事(研究・評価・医療担当)-
- 13:35 講演 (各40分)
白井 朗 -高知大学・海洋コア総合研究センター・特任教授-
「深海底鉱物資源の素顔-地球科学研究の最前線」
- 14:15 **池上 康之** -佐賀大学・海洋エネルギー研究センター・副センター長・教授-
「新しいステージに向かう海洋エネルギーへの挑戦と
世界展開 ~安定電源の役割を目指して~」
- 15:05 **小原 一成** -東京大学・地震研究所・教授-
「南海トラフ域におけるスロー地震の発見とその意義」
- 15:45 **平石 哲也** -京都大学・防災研究所流域災害研究センター・教授-
「港湾の津波対策事例」
- 16:25 閉会の辞 **瀬崎 薫** -東京大学・空間情報科学研究センター長(第一部会長)-

お問合せ先

〒783-8502 高知県南国市物部乙200
高知大学研究国際部研究推進課海洋コア室
TEL 088-864-6712

会場

高知会館・白鳳 (高知県高知市本町 5-6-42 2階)

路面電車・バス「県庁前」下車すぐ <https://www.kourituyasuragi.jp/kochi/>

共催



国立大学附置研究所・センター会議 第1部会
高知大学海洋コア総合研究センター(CMCR)
<http://www.kochi-u.ac.jp/marine-core/index.html>



Program

海が拓く新時代

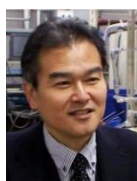
閉会 本家 孝一 (高知大学・理事 (研究・評価・医療担当))

講演

白井 朗 (高知大学・海洋コア総合研究センター・特任教授)
深海底鉱物資源の素顔-地球科学研究の最前線



『日本周辺海域を含む北西太平洋は深海底鉱物資源の宝庫ともいわれ、大がかりな探査や研究活動が続いている。しかし、新鉱床発見のニュースと同時に想定外のリスクも指摘されている。現在我々が行うべき重要なことは、深海域の地球科学的実態の解明であろう。ここでは、レアメタルを含む海底マンガン鉱床を対象として、資源開発において科学研究が果たすべき研究の事例を紹介する。』



池上 康之 (佐賀大学・海洋エネルギー研究センター・副センター長・教授)
新しいステージに向かう海洋エネルギーへの挑戦と世界展開
~安定電源の役割を目指して~

『海洋温度差発電は、45年以上を佐賀大学で研究教育が継続されてきた。近年、世界に先駆けて沖縄県久米島で2013年より発電を開始するなど、新しいステージに向かっている。特に、24時間安定して発電できること、海洋深層水利用による複合利用が注目されている。現在では、フランス、米国、韓国などをはじめ、多くの国々で、研究開発が進められている。これまでの培われた関連技術によってSDGsへの国際貢献を目指す展望と課題について紹介する。』

小原 一成 (東京大学・地震研究所・教授)
南海トラフ域におけるスロー地震の発見とその意義



『南海トラフ域では、フィリピン海プレートの沈み込みに伴って、マグニチュード8クラスの巨大地震がおおよそ100~200年間隔で繰り返し発生し、甚大な被害を及ぼしてきた。一方、最近約20年間の観測研究によって、スロー地震という新たな種類の地震活動が巨大地震震源域の周囲で活発に起きていることがわかってきた。これらのスロー地震の発見の経緯や活動の特徴、およびそこから読み取れるスロー地震と巨大地震との関わり合いについて講演する。』



平石 哲也 (京都大学・防災研究所流域災害研究センター・教授)
港湾の津波対策事例

『2011年の東日本大震災に伴う津波によって港湾施設にも大きな被害が生じた。特に防波堤は津波の越流によって背後の基礎部が洗掘され、転倒してしまうものが多数あった。そこで、将来の大津波に備えた粘り強い防波堤とするためのカウンターウェイト・ブロック工法を紹介する。また、防波堤の開口部を津波来襲時に閉鎖して港内の津波高を低減させる流起式可動型防波堤の開発について、そのメカニズムと実験結果を紹介する。』

閉会 瀬崎 薫 (東京大学・空間情報科学研究センター長 (第一部会長))